

経営比較分析表（平成30年度決算）

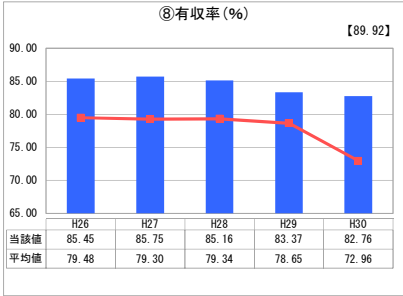
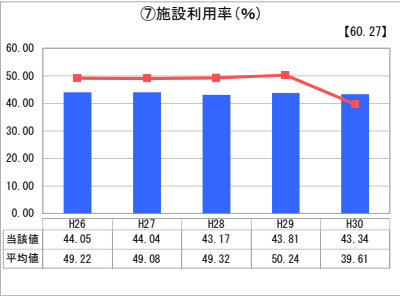
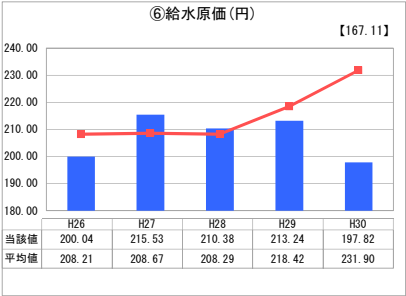
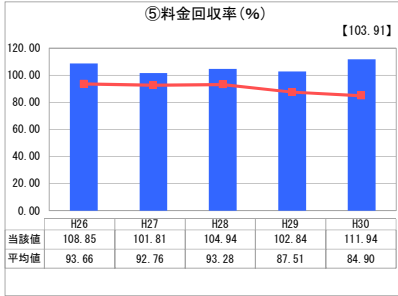
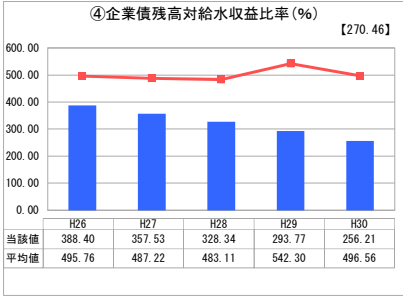
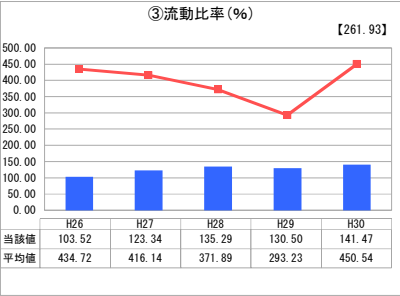
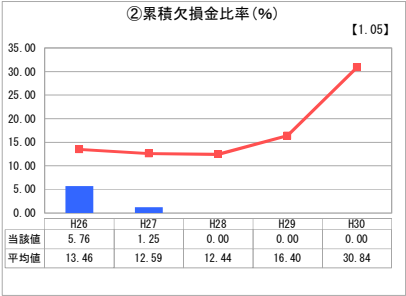
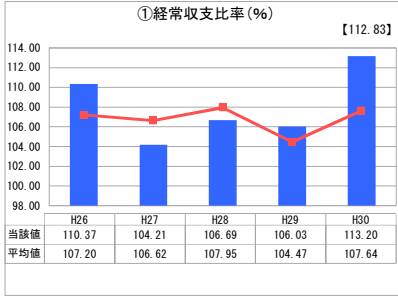
北海道 長万部町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A9	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	45.64	94.47	3,801	

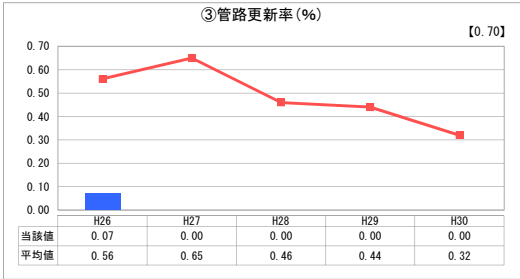
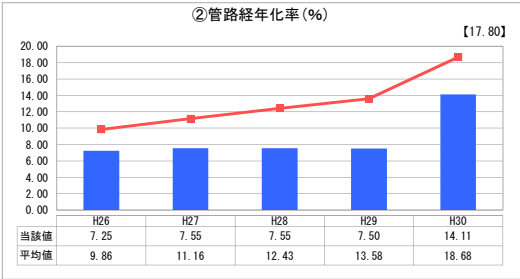
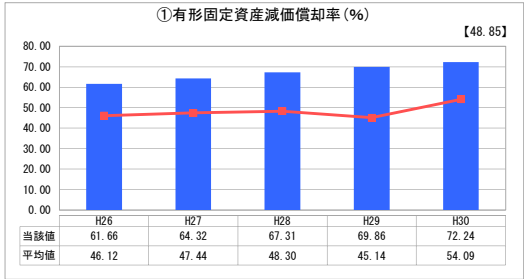
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
5,493	310.76	17.68
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
4,990	21.92	227.65

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率：平成24年度からは100%を上回る黒字経営が続いている。さらに平成29年度からは類似団体平均を上回っている。

②累積欠損金比率：平成28年度で累積欠損金は解消している。

③流動比率：平成26年度に急激に低下した原因は、会計基準の見直しにより企業債の負債化が影響したものである。流動負債の企業債償還金は増加傾向である。

④企業債残高対給水収益比率：類似団体平均より低く推移しており、比率は減少傾向にある。

⑤料金回収率：100%を超えているため、給水に係る費用は給水収益で賄えている。

⑥給水原価：平成29年度からは類似団体平均を下回っている。しかし平成26年度から有収水量が減少しているため、継続して経費削減を図る必要がある。

⑦施設利用率：平成26年度から同程度で推移している。

⑧有収率：類似団体平均値を上回っているが、平成29年度から減少傾向にある。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産原価償却率：類似団体平均を上回っており、老朽化が進んでいる。

②管路経年化率：類似団体平均を下回っているが、平成30年度より増加している。

③管路更新率：管路更新が進んでいない状況にある。このため、更新に係る財源を計画的に確保するよう検討する必要がある。

全体統括

本町では、将来、管路の更新時期を迎えるため計画的に更新しなくてはならない。また、現状では経常収支が黒字で推移しているが、人口減少による給水収益の減少を考慮する必要がある。

以上から、健全な経営状況を維持しつつ、施設整備を進めていく必要がある。